

俳句の街

清荒神参道俳句会

第八回 入選作品集 平成二十三年三月度

清荒神の沿革と現在

清荒神清澄寺は平安時代の初め、寛平八年（八九六年）宇多天皇の創意による勅願寺として創建されました。讃岐の国の名工、定円法眼が天皇の命をうけ、曼陀華の香木で刻んだ大日如来像を本尊佛とし、比叡山の高僧静観僧正を迎え開山の祖とし、真言宗東寺の長者益信僧都を導師として開創されました。益信僧都はこの聖地に荒神尊を祀り佛法守護、三宝の加護を祈ったところ社前にあった榊の木に、荒神尊の御影がありありと現出されました。これが「荒神影向の榊」と言われています。宇多天皇はこの靈験の報告を受け大変感銘を受け「日本第一清荒神」の称号を下賜されたのが始まりであります。

清荒神清澄寺へは阪急電車清荒神駅下車おのずから一筋の産道へと導かれてゆきます。

約一二〇〇米の道のりですが、百数十軒の老舗の商店が立ち並び「かまどの神」「火の神」である荒神さんにまつわる神祭具、食品等々現代に則した日曜雑貨品、昔なつかしい食べ物屋、衣料土産品等々何でも買える、程よいショッピングセンターです。

又特筆すべきは境内に先代坂本光浄和上と親交のあった画聖「富岡鉄斎の絵画約一〇〇〇点を所蔵する「鉄斎美術館」があり、貴重な美の殿堂であり必観を要する美術館です。

その外境内の数多く神仏の尊像にはそれぞれ歴史があり、古代ロマンを楽しむことの出来る聖域であります。この地を訪れる文人俳人の方々に当時の思い出をと参道七ヶ所にほぼ等間隔で投句箱を設置してあり清荒神同好会が運営管理し年一回開函し優秀作品を表彰しております。



特選 宝塚市長賞

参道の裸電灯曆売る

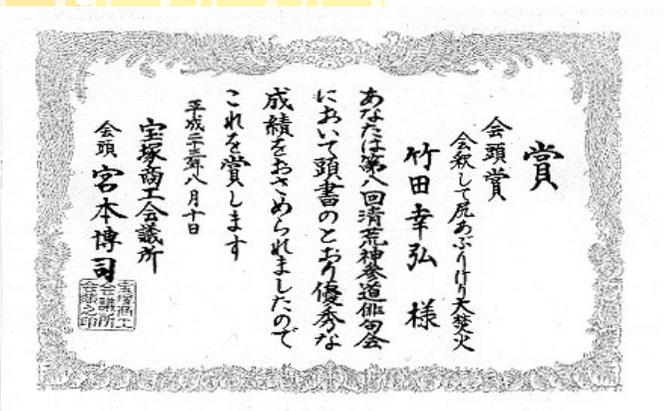
明石市 吉本 いたる



特選 宝塚商工会議所会頭賞

会釈して尻あぶりけり大焚火

岡山市 竹田 幸弘



特選 清荒神清澄寺賞

まず風にもてなされたり夏座敷

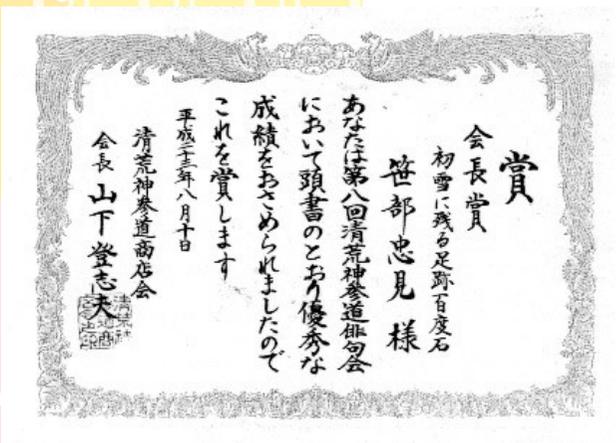
牛窓町 平野 五香



特選 清荒神参道商店会会長賞

初雪に残る足跡百度石

西宮市 笹部 忠見



佳作

無理をせず百まで生きよと言ふ賀状

宝塚市

坂本 梅野

一杓を一願地蔵寒の水

西宮市

佐土 美恵子

出迎への声の華やぐ初句会

茨木市

田川 維勢

冬滝の音ふりかぶる不動尊

加古川市

福田 成穂

荒神に来て火の恋ひし彼岸冷

川西市

松井 ふみを

窯元は陶と一文字木の芽風

牛窓町

後藤 靖子

拝殿に火鉢が一つ百の絵馬

岡山市

槇枝 麗子

風まとひ光まとひて银杏散る

三田市

玉垣 恵美子

老妻をいたわる杖にさくら舞う

豊中市

追鳥 フミ子

芒野の踏み分け道やかくれんぼ

神戸市

市川 ルミ

並べ売る独楽懐かしき詣で道

神戸市

木村 幸子

手水舎の竹箒の青し春初め

湖南省

池谷 百々代(滋賀)

参道に散りし櫻を掃く子かな

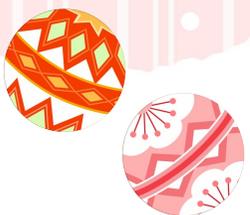
豊能町

村上 よしお(大阪)



入選

小さき手小さき口に桜餅	宝塚市	鈴木	千津子
襖橋春と一緒に渡りをり	広陵町	藤井	千代子(奈良)
春の宵十二支六度目の箸の音	岡山市	加藤	敬
くろぐろと鯉のもみあふ大暑かな	大阪市	森本	早智子
足腰はまだまだいける初荒神	大阪市	奥村	房子
夫逝きて今年はひとり初荒神	大阪市	小笠原	節子
観音の恵の日和梅開く	高槻市	中澤	実納子
参道に大き昆布屋葎すだれ	豊中市	広畑	昌子
うずたかき厄除火箸蟬しぐれ	豊中市	田中	ひな
車椅子かりて参拜五月晴	岸和田市	永野	はる
緑樹満つ枝間にのぞく蒼き天	川西市	山森	緑朗
花冷や遠き喪に伏し北の地に	宝塚市	山口	きよ子
錫杖の如き火箸の納めけり	三田市	沢田	茂子
春うらら古刹巡りの老い一人	大阪市	田中	久次
月毎の荒神詣でや蓬餅	宝塚市	尾上	博昭
声かけて梅一枝をもらいけり	宝塚市	阿部	朔子
被災地を飛ぶ救助へり冴返る	神戸市	門石	寛
厄除を嫁の分まで初参り	吹田市	矢吹	あきゑ
滝不動しぶき散らして木下闇	川西市	吉井	啓子
秋墓前八十路の足のおぼつかな	大阪市	山田	冬女



子供俳句入選

はつもうでみんなの足音笑ってる

吹田市

井端 ななこ

夏の海波にのまれて一回てん

宝塚市

喜屋武 心々

